

---

# あの刹那

たかぴょん

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あの刹那

### 【Nコード】

N9692C

### 【作者名】

たかぴょん

### 【あらすじ】

人間何かしらの戸惑いを抱えながら生きているものです。わたしはそんなおぞましい瞬間を表したいとペンを握ってみました。

小さくて真っ赤な口がなまこのように動く。

「お水こぼしちゃったア」

大きな瞳が半熟玉子のように、いわくありげな光沢を放っている。

私。高木和久、五歳。

大人には分らない恥じらいと、子供にしか分らない無邪気さが交錯して万華鏡よろしくの世界舞台を作っている。わたしはあの刹那にすべてのことが真っ白になった。

朝起きると、気掛かりが生じたのだ。枕カバーにへばりつくならばまだしも、敷布団のカバー上半部分は斑点のように、ところどころ濡れている。

『ゆだれ』ではなく『よだれ』である。わたしは当時、忌まわしい水気を前者のように発音していた。そいつはわたしにとって悪魔だった。気色が悪いアメーバ。隣に寝ていた兄や台所で料理をする母に見つかりたくはない。この刹那、ばれてしまうとわたしが人間でいて、人間でなくなるようになるだろう。わたしはコップ一杯の水を敷布団の上に掲げ、そしてひっくり返した。

そして「ああお水こぼしちゃったア」かすかに寝室一帯に響く。誰も意識をしていなかった。わたしは成功したと思った。が、もともと取らなくてもよかった赤っ恥であったし、どうにもこうにも無くてこそ当たり前という気へ変わってしまう。

大人になったわたしも、上司から営業成績が悪いときは契約者

数について鯖を読む。またさぼって日は、自宅のバルコニーから携帯電話片手に「都内は混んでいたいへん寒いですよ」などとふてぶてしい態度を示す。

これはあくまでも想像上の例え話なので、本気になさらないように……。やはり三つ子の魂八つまでだな。

《これだけは勘弁してください》というような拒絶の呪文をかけたくなることもあるはずだ。だがこの世の中に魔法などあるはずがない。

存在するものは、存在するものなり、ついに目の前へ顔を出す。刹那である。無断欠勤したアルバイト先で、自分自身の瞳が映さなければならぬ？ 翌朝、初めて目にする上司の表情？ 怒っている。もちろん怒っているだろう。業務に支障をきたすことをしたのだから、他のメンバーに迷惑をかけたのだから、会社との信頼をなくし経済的損害をかけたのだから。

中身のしっかりしている、確固たる信念を持つ生き方をしていれば、いくらかは救われてしまう気がする。

刹那は仏教語で指をつまはじく瞬間の六十分の一だ。街角パーラーで過ぎる刹那のように、あくまでも打ち上げ花火のように時と金を無駄遣いしないように……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9692c/>

---

あの刹那

2010年10月9日01時29分発行